

36期生

合格体験記

昌平高等学校

はじめに

今年度も「合格体験記」を発刊することとなりました。東京大学・京都大学・東京工業大学・一橋大学をはじめとする国公立大学合格者、早稲田大学・慶應義塾大学をはじめとする難関私立大学合格者、また、公募推薦入試やAO入試での合格者など、多彩な昌平高等学校 36 期生 21 名が書いてくれました。

まず、最初にことわっておきますが、ここには、君がこれからやるべきことは何かということに対する答えが書いてあるわけではありません。教師を続けていると、毎年のように「この科目はどうやって勉強していったらいいですか?」と質問してくる生徒に接することがあります。そのようなときは、教師としての自分の知識や経験に基づいて、いくつかの例を提示することはできるのですが、最後に、「試行錯誤して自分でみつけなさい」という内容の言葉を必ず付け加えるようにしています。

絶対的な正しい学習方法があらかじめあって、そのレールの上をただ進むのが学習なのではなく、むしろ自分なりの方法をみつけるために学習していくべきだと私は考えています。人それぞれ個性は異なり、育った環境が異なり、現在置かれている状況も異なります。たとえ成功者の体験であっても、誰かのやり方が完全に自分にあてはまるということはないでしょう。だから、自ら試行錯誤し、悪戦苦闘する覚悟をしてください。自分にとって、各科目の勉強時間の配分をどう設定するのが妥当なのか。勉強時間や復習の回数を増やすことが自分に必要なことなのか、それともより深いレベルで理解することが足りていないのか。自己分析を繰り返しながら、努力と工夫を重ねていってください。学習とは、自己分析を繰り返しつつ、多くの事柄の中で優先順位を付けながら、組み合わせを工夫していくものなのです。自分なりのやり方をつかむことが学習なのです。強靭な精神力も必要になってきます。常に自分の学習状況を検証しながら、不安定な状況に耐える力を身につけてください。

そうやって身につけた自分なりの学習方法・情報処理方法・自己分析能力・精神力というの受験勉強だけで終わるものではありません。自分自身のスタイルができあがれば、その後の人生を支える土台にもなり得るでしょう。そう考えれば、受験勉強で得たものは、一生モノの財産になる可能性があります。

さて、それでは他者（先輩方）の声を聞く必要はないのかということはあります。この「合格体験記」を読むことで、成功した人々はそれぞれしっかり自分自身のスタイルを持っているものだ、という点に気づけるはずです。大いに参考になるでしょう。君たちと同じ昌平高等学校で学び、栄冠を勝ち取った先輩方による、君たち後輩に送る熱いメッセージに耳を傾けてみてください。

平成 29 年 4 月 24 日

昌平中学・高等学校 進路指導部長 堀越 直樹

「所見」

東京大学 理科一類

3-12 島村 洋太朗

合格併願校 早稲田大学 理工学部 物理学科
慶應義塾大学 理工学部 学門 1

勉強法というのは、一人ひとり自分にあったスタイルがあると思います。したがって、合格者の体験記などを読んで自分のスタイルを崩す、といったことはあまりよくないように思われます。また、志望大学に合格した直後の我が物語な人の話はあまり参考になりません。かといって何も書かないわけにもいかないので、自分が受験に使った各教科についての所見を述べます。話半分に読んでいただけたら幸いです。

私が東京大学を志望したのは中学 3 年の頃だったので、高校 1 年のときから受験を視野に入れて勉強していたと言えます。しかし、1 年から 3 年前半までは、やるべきことをしっかりとやり、基礎を徹底的に習得することに時間を割いたように感じます。私は、3 年の後半あたりから過去問に手をつけ始めましたが、これではほとんど終わりません（全部をやる必要性はないですが）。

また、センター試験は最も怖い試験ですが、基礎ができるなら、そこそこ練習すればなんとかなります。

2 次試験については、まず、現代文は、あまり勉強する教科ではないと思われがちですが、準備を怠る者を徹底的に潰す、とよく言われます。文章を正確に理解できなければほぼ 0 点です。勉強するにあたっては、段落ごとに要約をして、全体の流れをつかむ練習をするとよいです。古典は、単語や文法をおぼえてひたすら音読すればできるようになります。数学は、できる人は非常にできますが（かなり勉強していると思います）、中途半端にできる人は単純なミスで点数がブレる傾向にあります。数学に愛されていない人は、数学を信頼してはいけません。物理は、教科書を読んでいても疑問ばかりが浮かんでくると思うので、最難関大志望者は、微積を交えて最初からすべて理解するとよいです。完成してしまえばかなりの得点源です。化学は、教科書を読んでセミナーをやったあとに過去問に慣れておけば十分です。英語は、読まなければすぐに忘れてしまうので、毎日触れるべきです。リスニングは、試験前に、理解できるレベルの英語を聞いて耳を慣らしておくとよいです。これらの各教科のバランスを考えて勉強していくことが重要だと思います。

一般入試において大学受験に合格するための必要十分条件は、「入学試験で合格点を取ること」です。いくら努力をしても問題が解けなければ合格することはできません。計算ミスもマークミスも運もすべて実力です。自分の実力を信じて、健康に気をつけて、頑張ってください。健闘を祈ります。

＜参考書・問題＞

学校で買ったもの、過去問、新・物理入門（駿台）

「京大合格体験記」

3-14 軽部友裕

合格大学学部 慶應義塾大学 理工学部 学門2 早稲田大学 基幹理工 学系1
東京理科大学 理学部 数学科

私は一年生の頃は志望校がほとんど決まっておらず、漠然と与えられた課題を解いていました。高1の夏休み中のほとんどの時間を「大学への数学 一対一対応 数学I」と解くのに費やしました。ただ、ほとんど先生に質問せず、何とかして自力で解決しようとしました。そこから、数学が楽しくなって学校の勉強のほかに、趣味性の高い数学の勉強をしていました（結局、入試直前まで時間をつくってはこういう数学をやっていました）。ただ、それと同時に他の科目に対する興味もわいてきました。そのため、文理を気にせず考查の勉強をしました。

二年生になってから、担任の勧めで京大を志望しました。このころには、勉強は苦ではなく、むしろ楽しかったように思います。どの科目の問題集も間違ったところだけを何回か解きなおしました。問題がとけなかったとき、解答を写す前に、まず解答全体を読み、十分理解したうえで、自分の言葉で解答を書き直すようにしていました。ほかに英語や古典は音読をほとんど毎日しました。

三年生になっても、問題集は変われど、利用法は変えませんでした。先生方に添削を頼むことが多くなり、本格的に入試の準備をし始めました。このころから、模試の復習をはじめました。

振り返ると、僕のしてきたのはマネしにくい勉強法のように感じます。ただ、多くの人が言うように一つの問題集をやり込むことは重要でしょう。最後に、入学準備をすると、大学合格はゴールではない、と感じます。それを考慮して、努力してください。

<参考書・問題集>

英語 ・ 英文標準問題精講 ・ 和文英訳の技術（プレイス）・vintage

数学 ・ 大学への数学 一対一対応 数学 I II III A B

京大の25カ年の英語、理系数学、国語、化学、物理

「成蹊大学AO入試合格までの道」

成蹊大学文学部国際文化学科

3-3 中田 隼斗

成蹊大学文学部

私は成蹊大学AO入試を受験すると決めてから、まずは一般受験へ向けて英語などの受験勉強をはじめました。成蹊大学のAO入試は10月だったので、落ちてしまった場合の事を考えて、受験勉強もしておこうと思いました。また、文学部のAO入試を受けるためには英検2級を持っていなければならなかつたので、英検の勉強も進めていました。文学部のAO入試は一次試験の書類審査と二次試験のプレゼンに分かれており、一次試験の書類審査では、自己PR文とレポートがあります。

私は、一次試験の内容が発表されたあと、担任の先生に協力してもらい、まずレポートの作成から始めました。このレポートでは、自分が志望する学科の研究領域についてのものと、自分が最近興味のあることについてのものの二枚を書かなければいけません。どちらのレポートも本を何冊か読まなければいけないので、少しでも自分が興味のある本を選んで読みました。また、私がこの二枚のレポートを書くにあたって気を付けたことは、二枚のレポートの内容を関連させることです。私は、二枚のレポートでは人種差別について書き、学科の研究領域の方はキング牧師について、興味のあることについての方はサッカーと人種差別について書きました。次に自己PR文では、自分の長所、また、自分の夢やそれに向かって自分が努力していることを書きました。次の二次試験のプレゼンの内容が発表される時には、まだ一次試験の結果は出でていないですが、一次試験の結果が出てからプレゼンまでの期間は一週間くらいしかないので、結果が発表される前からプレゼンの準備をした方がいいと思います。プレゼンの準備はまず、レジュメを作ることから始めた方がいいです。レジュメはプレゼンの時に大学の先生に提出するので、一番大切だと思います。また、私は、プレゼンの時に大学の先生に分かりやすく聞いてもらうためにフリップを作成し、地図や写真や重要なポイントをまとめました。このようにしてどうやったら相手が分かりやすく話を聞くことが出来るかを考えて工夫することも必要だと思います。プレゼンが完成したら、何回も、内容が頭に全て暗記するくらい練習した方がいいです。自分は友達に直接聞いてもらい、家に帰ってもビデオ通話をしてプレゼンの練習をしました。友達だけではなく、全く知らない先生にもプレゼンの練習に付き合ってもらいました。私はやりませんでしたが、顧問の先生に協力してもらってより緊張する中でプレゼンをするのもいいと思います。

私は、この短期間で自分の将来が左右されるかもしれないと思い、必死にがんばりました。文章がうまく書けなかったりしてイライラしたりもしましたが、その時には友達が励ましてくれたので最後までやり切ることができました。うまく人に頼るという事も必要だと思います。

「推薦入試での成功」

東邦大学薬学部薬学科 公募制推薦入試

3-9 濱田佑樹

合格併願校

帝京大学薬学部薬学科 AO入試

帝京平成大学薬学部薬学科 AO入試 (特待生S)

合格体験記を書くに当たり、当初みなさんの大半と同じように、一般入試で大学入試に挑もうと思った私がどうして推薦入試という選択をした経緯を書こうと思います。まず、それは行きたい大学に合格するためのチャンスを増やすためであったからです。

推薦入試と言うと、小論文や志望理由書など一般入試と異なる受験形式だと思いがちですが、私が受験をした東邦大学薬学部は一般入試と同様の数学、化学、英語の三教科の筆記試験と短時間の面接というものでした。

推薦入試の選択が現実味を帯びてきたのは高二の夏休み。オープンキャンパスで大学に訪れ受験相談をした際、教授から推薦入試も良いと勧められたからです。そこで私は一般入試を念頭に置き、推薦入試も一つの受験手段であると考え始めました。推薦入試の出願資格に学校長の推薦書と評定基準があるので普段の学校生活や定期テストの結果も大切にしなければなりません。ここで私が利用していたのは、スタディーサプリ。いつでもどこでも授業を受けられる非常に充実しているサービスで、一番お世話になつたのは数学の山内先生の講義。厳しい授業の中も一つ一つの解説が詳しく、学校の授業で理解できなかった部分もすぐに解決出来ました。あまり学校の先生に質問するのが苦手と思う人は一人で悩まずこれらの方法も活用してみて下さい。

受験対策としてまず、化学の先生のところに行きオススメの参考書や問題集を教えてもらいそれをひたすら解いていき、自分の苦手が浮き彫りになりそこを重点に先生に質問に行くなどして苦手を克服して行きました。不得意の英語は少しでも好きになるために、毎日お風呂でCDを聴きながら短い文章を読み、少しづつ長い文章も読めるようになりました。夏休みには、毎年出題される長文読解の対策を行いました。

面接練習は、入試の二週間前から始め、担任の先生にしていただきました。国語の先生であったこともありニュアンスの違いや日頃の癖等複数のご指摘や、圧迫面接をしていただいたことは、大変重要であったと思います。試験当日は、会場に行くと緊張してしまったが次もあることだし大丈夫と思い込みました。筆記試験では、予想以上に問題を解くのに時間がかかってしまい焦ってしまいましたが、面接ではたくさん練習したせいかあまり緊張せず思いのほか気楽に話せました。しかし、答えに反論されるなどと内容は手強いものであったと感じます。

最後に、推薦入試は高校生活全体の評価をされるように感じました。あくまで一般入試で第一志望の大学を目指すことが大前提ですが、きちんと学校の授業を取り組みさえすれば推薦入試も挑戦することができます。一つの入試方法にとらわれずに、自分の有利になる方法で第一志望校合格を勝ち取って下さい。みなさんの合格を心から願っています。

参考書 問題集

(英語) vintage (いいづな書店) 速読英単語 入門編 (Z会出版) 英語必修構文 101 (Z会出版)

入門英文問題精講 (旺文社)

(数学) 大学への数学 1 対 1 の対応の演習 (東京出版) Z会数学基礎問題集 チェック & リピート

(Z会出版) Focus Gold (啓林館)

「受験を振り返って」

一橋大学社会学部社会学科

3-14 渋田 奈々

合格併願校 慶應大学商学部

中央大学経済学部

早稲田大学文化構想学部

明治大学政治経済学部

私は4月までダンス部で活動していましたが第一志望に現役で合格することが出来ました。塾の特別講習にも行ってみたことがありますが私には親身になって教えてくださる先生方がいる学校が合っていると思い最後まで塾に通いませんでした。

追い込みタイプではなかったので高校一年生の頃から日々の復習や小テスト、定期テストをコツコツやってきたのが良かったのかなと思います。定期テストは基礎的学力を身につけるためにとても重要なのでテスト直前になって詰め込むのではなく時間をかけて何回も繰り返しやり、受験に必要なベースを作ることをおすすめします。

4月に部活を引退し、本格的な受験勉強を始めました。最初は過去問を解いても全然解けなかったり、11月に行われた大学別オープン模試の数学で180点中15点を取ったりなど焦ることも沢山ありましたが最後まであきらめずに取り組むことが大切だと思います。二次試験の過去問は10月頃から少しずつ始め、特に数学では出来ない問題がほとんどでしたが何回も繰り返しやることで少しづつこつをつかめるようになりました。それと同時にセンターの過去問も解き始め、科目数が多かったので苦手科目に重点を置きながらあまり教科バランスが偏らないように計画をしっかり立ててやりました。二次試験の過去問は各教科の先生方に添削をお願いしました。自分では正しいつもりでも実際は間違っていることもありますので（特に国語）自分で判断するのではなく先生方にお願いした方が良いと思います。

無事合格できたのはクラス・部活の仲間、家族、そして何よりも忙しい中早く添削を引き受けて下さり質問に答えてくださった先生方のお陰だと思います。本当に感謝しています。勉強法がわからなかつたり悩んだりすることがあったら積極的に自分で行動して先生方に頼ったりすることをおすすめします。

<参考書・問題集>

英語：やっておきたい英語長文 700, 1000 (河合塾)

数学：focus gold

日本史：日本史 B 標準問題精巧 (石川晶康 著) テーマ・文化史 整理と入試実践 (Z会)

「合格体験記」

早稲田大学 文学部 文学科

3-14 荒木 智華

合格併願校 立教大学 異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科
明治大学 国際日本学部 国際日本学科
成城大学 文芸学部 ヨーロッパ文化学科

私は部活に入っていて、引退した高3の4月から本腰を入れて受験勉強を始めたのでここではそれからの勉強について書きたいと思います。

高1高2は主に英語の基礎固めに力を入れ、高3になってからは、問題集を使った勉強をし始めました。文系の人は、3年になると社会にかける時間が増えます。暗記すべきことも多く大変ですが、私は先生に言われたように重要な事柄、問題集や模試で間違えた事柄にマーカーを引き、そこを毎日読みました。間違えるたびに違う色で上から線を引くと苦手なところも分かりやすくなるし、毎日読むことで自然と頭に入ってくるので歴史の勉強法としてはお勧めです。英語は読解問題をたくさん解きました。英文をコピーし、知らなかった単語、解答の根拠となる部分に線を引き、音読を繰り返すようにすることで、読解力は少しづつついていったと思います。どの科目を勉強するときも、復習に重点を置いていました。冬休みからはほぼ毎日自習室で赤本を解いていました。赤本も基本的にはそれまでと取り組み方は同じで、復習を繰り返しました。年明けからはセンター対策に専念したため、本番でもいい点数が取れ、自信がつきました。その後の一般入試は立て続けで精神的にも辛い時期だと思います。私は緊張しても全力が出せるような準備をして、一つ終わったら次の試験へと気持ちを切り替えました。この切り替えは意外と大切だと思います。とにかくそれまで自分がやってきたことを信じて勉強を続けた結果、早稲田に合格できた時は自分の努力が報われたと感じ、とても嬉しかったです。

受験勉強は長くてつらいし、投げ出したくなることもあると思いますが、応援してくれる家族や先生方への感謝を忘れず、やった分だけ自分に返ってくると思って頑張ってください。皆さんを応援しています。

＜参考書・問題集＞

英語： DataBase4500,5500 桐原書店 基礎英文問題精構 旺文社

やっておきたい英語長文 500,700,1000 河合出版 Vintage いいづな書店 世界史：はじめる世界史 Z会出版 望月先生お手製の正誤問題のポイントの冊子

国語：3ステップ頻出順古文単語 365 尚文出版 大学入試全レベル問題集 旺文社

(化学) セミナー 化学 化学基礎 (第一学習社)

化学計算の考え方解き方 (シグマベスト)

化学一問一答 [完全版] (東進ブックス大学受験高速マスター)

化学頻出！スタンダード問題 230 選 (駿台文庫)

「合格体験記」

東洋大学 国際観光学部 国際観光学科

3-4 熊倉 美羽

合格併願校 共立女子大学 国際学部

私が受験勉強において一番大事なことは基礎固めだと思います。私は赤本をやり始める時にまだ文法や単語を覚えていなかったので、過去間に多くの時間を費やすことができませんでした。暗記が苦手だったので後回しにしてしまい、受験直前まで基礎固めをすることになってしまいました。小テスト、ボキャコン、定期テストは基礎ができているか確認する、まだの人は覚えるためのとてもいい機会だと思います。当たり前かもしれません、日々のテストを疎かにしないでください！

次にアドバイスしたいことは、英検が大切だということです。今回の合格において一番の要因は英検だったと思います。私は英検を利用したことにより、英語の試験は免除だったため、少し気持ちが楽でした。最近は受験方式によって違いますが、英語外部検定試験を利用している大学が多いです。私が受験した大学の半分以上は、英語外部検定試験を利用している大学でした。また、「英検は何級を取得しているか」だけでなく、「どのくらいのスコアを取れたのか」が重要になってきます。スコアが達していないと利用できない大学もいくつかありました。これから英検を取りたいと考えている人は、ただ英検を取得するだけでなく、高いスコアを取ることを意識するといいと思います。

最後に、受験は思い通りいかないことがほとんどだと思います。私も模試の結果が全然目標に届かなく、何度も心が折れました。それでも最後まで諦めないでください。行き詰ったら先生に相談に行くといいと思います。昌平の先生方は本当に素晴らしい、的確なアドバイスを沢山いただきました。皆さんが悔いのない受験を終えられることを願っています！！

＜問題集・参考書＞

教学社 センター赤本シリーズ (英語、国語、世界史)

教学社 大学入試赤本シリーズ 各大学

旺文社 ターゲット1900

その他学校で買った参考書

「受験を通して思ったこと」

東京学芸大学 教育学部 中等教育教員養成課程

3-6 ムーア アレクサンダー海

受験を終えてしばらく経ちますが、受験で大事だなと思ったことが二つほどあります。一つは、当たり前のことかもしれません、日々の積み重ねです。学芸大学の公募推薦を受験するにあたり、「評定平均値が4.0以上」で「全国大会レベル以上の競技会に選手として出場し、優れた成績をあげる」ことが必要な要件だったのですが、特進アスリートとして日々文武両道に努めていたことが功を奏したと強く実感しています。特に僕の場合は早い段階でスポーツ推薦で進学しようと考えていたので部活に重点を置きがちでしたが、クラスメイトが定期テストや模試に対して意識を高く持っていたので僕も負けじとモチベーションを高く保つことができました。

二つ目は、どちらかというと反省なのですが、計画を立てることです。どの大学に願書を提出するかは陸上の試合次第で変わったので、最後の試合があった8月末まで本格的な準備をすることができませんでした。結局、試験当日まで小論文や面接練習、実技試験のための練習など焦ってやりました。ですのでシーズンが始まる前にもっと調べ、試合の結果を予測（良くも悪くも）して計画を立てていればこんなに場当たり的なことにならなかっただろう、と今になって思い返しています。

こんな当たり前みたいなことがアドバイスになるのか自分でも不安ですが、特別なことしなくても基本的なことを積み重ねていけば、受験に限らず物事を成し遂げることができると思っています。そもそも基本的なことがしっかりとできないと、応用的なこともできないと思います。ですから今のうちに基本的なことができているか自分を振り返ってみてはどうでしょうか？

あまりありがた味のある体験記は書けませんでしたが、それでも後輩たちを応援したいという気持ちもあります。新3年生はあと1年、悔いを残さないように頑張ってください！

参考にした本>小論文これだけ！(樋口裕一・東洋経済新報社)、小論文の完全ネタ本[人文・教育系](神崎史彦・文英堂)、体育における「学び合い」の理論と実践(梅澤秋久・大修館書店) 以上

「特アス合格体験記」

埼玉大学 工学部 機械工学科

3-6 室岡 伸

合格併願校

東京理科大学 理工学部 中央大学 理工学部
芝浦工業大学 工学部

私が本格的に大学受験を考えたのは、高校2年生の10月からでした。ただし、私は男子陸上部に所属していたので、時間は限られていました。なので、どのような方法が効率が良いか考えてから勉強しました。まず、国公立大学でも私立大学でも英語、数学、理科は必須科目なので、この3教科の基礎固

「受験を終えて」

お茶の水女子大学理学部生物学科

3-14 郷間 葵

合格併願校 東京理科大学理工学部応用生物科学科(センター)

受験というのは面白いもので、思いどおりにならず辛いことが多くあったにもかかわらず、今振り返ってみると高校時代の良い思い出になったのではないかと思います。受験が終わった後に皆さんにもそう思っていただけるよう、ほんの少しですが体験談を書こうと思います。

私は高校一年生の初め頃は家から通える国公立——私の場合は埼大——に受かったら良いな程度に考えていました。しかし先生との話の中で上を目指す分には構わないのでは、と模試の第一志望校には東大と書き学力の目標としました。これにより模試のたびにまだまだ上が沢山いるから頑張ろうと思えましたし、レベルの高い問題に取り組む機会も増えました。そして出願時には東大を受けるかどうか悩むほどになりました。結局受験はお茶の水大学にしましたが、上を目指した勉強は面白い問題に出会う確率を高め、勉強を楽しくしたのではないかと思います。

高校一、二年の時から大学の過去問題を多少は解いていたものの、赤本に手を出したのは高校三年生になってからです。さらにお茶大の赤本を解いたのは出願してからでしたので、私立を何校も受けている間に時間が足りなくなっていましたと思います。それでも余裕をもって受験できたのはより難しい問題をたくさん解いてきた、と自信が持てたからだと思います。センター試験対策は春休みや夏休みなどまとまった時間が取れるときに少しずつ進め、直前期に過去問題、予想問題は苦手科目を中心に十回分くらい解き、本番ではまよよ、という気持ちで受けました。

やっていて良かったと思える事は、ありふれた事なのですが模試や入試問題でこの解法は取り入れたい、と思った問題をまとめるノートを作成したことです。ポイントを書き出すことで理解が深まりますし、本番で休み時間に読み返して落ち着くことも出来ます。時間はかかってしまいますが、ノートを作る価値は十分にあると思います。

最後に使った参考書・問題集で良いと思ったものを挙げておきますから、参考の一つとしてみて下さい。これが皆さんのお役に立てたら嬉しく思います。

<参考書・問題集>

- 英語 ·Vintage (著者 篠田重晃・米山達郎 /出版社 いいづな書店)
·データベース 4500・5500 (出版社 桐原書店)
- 数学 ·大学への数学 1対1対応の演習 (出版社 東京出版)
·数学 I+A+II+B 極選4 3発展編 (著者 長岡亮介 /出版社 旺文社) ·赤本
- 国語 ·大学のOP過去問題
·明解シリーズ 源氏物語 (著者 西谷元夫 /出版社 有朋堂)
- 生物 ·最新図説生物 (出版社 第一学習社)
- 化学 ·化学重要問題集 (出版社 数研出版)

「受験を通して」

首都大学東京 健康福祉学部 看護学科

3-12 久保田 成美

合格併願校

武蔵野大学 看護学部 看護学科

都立広尾看護専門学校 看護学科

私は、一般試験の前期日程で、首都大学東京に合格しました。私は、実は元々医学部を目指しており、数学も数IIIまでとっていました。しかし、高三の9月下旬に、それまでの成績の伸び悩みや、受験勉強のストレスから友達と喧嘩してしまったことなどもあり、志望を看護に変更しました。その後すぐ、東京医科歯科大学に推薦入試があることを知り、ギリギリで出願し、試験までの2週間ほど小論文と面接の対策をやり、受験したもの、12月に不合格だったとわかりました。それから1ヶ月、センター試験の勉強をして、センターの自己採点結果から受験校を首都大学東京に決め、面接対策をし、前期日程で受験し、合格しました。このように受験生活を送ってきて、自分の選択に後悔したこと、成績が上がらなくて泣いたことも、受験勉強のやる気をなくしてしまったことも、何度もありました。そういう時は、一緒に勉強している友達や、同じ部活の仲間や、教科担当や担任の先生に、話を聞いてもらい、自分がどうするべきかを考え続けました。毎回すぐに立ち直れたわけではないけれど、そうやって悩んできることも今考えると必要なことだったのかもしれません。これから受験を受ける皆さんも、たくさん悩んで、いろんな人と話をして、たくさん考えて、自分がどんな道に進むか決めて欲しいと思います。これから第一志望を目指していく皆さんに言うのは失礼かもしれません、そうして悩んだり考えたりしたならば、結果的にどこに行くことになっても、納得できると思います。

私が受験勉強をやってきた中で大切だと思ったことは、計画性です。毎日の勉強の計画はもちろんですが、どの大学のオープンキャンパスに行くか、どの大学を受けて、どの大学を併願するか、推薦を受けるか、など考えておかなくてはいけないことがたくさんあります。特に、オープンキャンパスは日程が被ったり申込みが必要だったりと、早めに調べていなければ行けなくなることがありますし、受験は準備する書類もたくさんあり、締め切りもあり、また受験料もかかります。一般で私立大学を併願するとなると、私立大の入学金が20万くらいかかり、国公立に受かった時はそのお金は戻ってきません。他にも、遠方なら交通費や宿泊代などいろいろとお金が必要となります。このように、受験はお金も絡んでくるので、きちんと計画を立てる必要があります。

最後になりますが、受験を通して、たくさんの人にお世話になりました。家族、先生方、クラスの友達、部活の仲間など、本当にいろいろな人に助けてもらいました。私が最終的に合格できたのは、そういう人たちのおかげです。私は、その人たち全員に、感謝の気持ちを持ち続けたいと思っています。

<使った問題集> 参考書は、武田塾のルートというサイトを参考にしました。

基本的には、学校で使用していた教科書や参考書やプリントを使っていました。センター前には、過去問を先生方に印刷してもらったり借りたりしていました。

システム英単語/刀根雅彦、霜康司/駿台文庫

ゴロゴ手帖/板野博行/スタディカンパニー

漢文早覚え即答法/田中雄二/学研マーケティング

宇宙一わかりやすい高校化学(理論化学、無機化学、有機化学)/船登惟希/学研教育出版

めに時間を費やしました。これはセンター試験にも繋がることなので、しっかりやるべきだと思います。第一志望が国公立大学だったので、国語と社会も勉強しなければいけなかったのですが、部活をしている間はあまりにも時間を取りることができず、学校の授業だけで頑張ることにしました。その結果、引退してすぐの模試では国語と社会の偏差値は30台を取ってしまいましたが、数学と理科では両方とも65オーバーの偏差値が取れたので、少し自信がつきました。部活を引退してからは勉強をする時間が取れるようになり、5教科7科目の勉強にシフトしました。2年生からコツコツと続けた基礎固めのおかげで、数学と理科は応用問題にも難なく取り組めるようになっていました。国語と社会も本腰を入れて勉強を始めると少しずつ数字に現れてきたので、自分のやり方は間違っていたなと思いました。引退してから11月までは5教科7科目の基礎固め、12月からセンター試験まではセンター試験対策、センター試験が終わってからは色々な大学の赤本を解きました。このような勉強法ですが、私立大学も国立大学も共に受けました。参考にするかしないかはあなた次第です！

一般入試は早くても2月、遅ければ3月中旬までかかります。正直に言って長かったです。精神的にも肉体的にも辛いものがありました。途中で心が折れそうになって、諦めそうになることもあります。私もそうでした。ですが、どんなことが起きても諦めないで下さい。今日解けない問題も明日には解けるかもしれないし、1か月後は解けるかもしれないし、受験当日には解けるかもしれません。その1問で合否が変わるかもしれません。もし、その1問をやらずに不合格したらずっと後悔するでしょう。だから後悔しない選択をするために、笑って大学に進学するために、最善を尽くしてください。

最後に、私は特アスなので同じように特アスの人には本当に頑張ってほしいです。文武両道を掲げることは本当に難しいものです。誰もがすることではありません。ですが、そんな難しい課題だからこそ達成することに意味があるのだと思います。必ずや人生の糧になることでしょう。大変だと思いますが、ぜひ頑張ってください。

<使った問題集>

国語…富井の古文読解をはじめからていねいに（富井健二 ナガセ）

基礎からのジャンプアップノート漢文句法・演習ドリル（三羽邦美 旺文社）

数学…focus gold（啓林館） 大学への数学 1対1対応の演習（東京出版）

英語…vintage（いいいぢな書店） 英単語ターゲット1900（旺文社）

基礎英語長文問題精講（旺文社） やっておきたい長文500（河合出版）

物理…名門の森（浜島清利 河合出版） 物理 講義の実況中継（浜島清利 語学春秋社）

物理のエッセンス（浜島清利 河合出版）

化学…化学重要問題集（数研出版） 福間の無機化学の講義（福間智人 旺文社）

鎌田の有機化学の講義（鎌田真彰 旺文社）

鎌田の理論化学の講義（鎌田真彰 旺文社）

地理…瀬川センター地理B講義の実況中継①②（瀬川聰 語学春

「合格体験記」

筑波大学 地球環境学類

3-7 坂田 純崇

私が受けた試験は小論文と面接の2つがあり、1日目に小論文、2日目に面接という形がとられていました。

小論文は大問1が英語、大問2と3は地学的、又は地理的な問題でした。英語の問題は、過去問がなかったので英語科の先生に協力していただき、理科的な内容の長文を解きました。地学の問題は、昌平高校では地学が履修できないので、地学を教える先生に基礎的な部分を教えていただきながら過去問を解くという対策をしました。

面接練習は、主に受験までの放課後を使い担任の先生をはじめ、たくさんの先生方に協力していただきました。練習の中で特に意識していたことは、「台本を作り、それを丸暗記にしないこと。」これと、「自らのアピールポイントを1つでも多く相手に伝えること。」です。面接試験がある方は是非参考にしてみて下さい。公募推薦での受験が決まってからおよそ2ヶ月程度の短い準備期間でしたが、必死に対策をしていたので自信をつけることができ、当日もほとんど緊張することなく受験を迎えることができました。(自分なりの緊張をほぐす方法を見つけておくことで、いざという時にリラックスでき、普段通りのパフォーマンスができるようになると思います。)

最後に、私は1年生の時に勉強を疎かにしてしまい、周りに置いて行かれ、気が付くと受験に突入していました。そのため合格した後、今がとても大変です。同じ轍を踏まないように頑張ってください。まだ間に合います。応援しています。

「私立文系向け合格体験記」

明治大学経営学部

3-7 友成 祐貴

合格併願校 獨協大学 経済学部 経営学科
法政大学 経営学部 経営学科 経営戦略学科

僕の2年生の頃の模試の成績は40前後でした。受験は英語が重要だから特にしっかりやっておくように言われたので、2学期から受験勉強を始めました。

英語は DataBase4500 を使って、1日200個の単語を覚えて1冊終えると1周というのを何十周もやりました。最初は全然覚えられないけど、3周、4周と進めるうちに覚えてくるようになります。英語を見たらすぐに訳せるレベルにまでしておきます。それと先生から教えて頂いた、「入門英文解釈の技術70」と「基礎英文解釈の技術100」を解き、100の方は何度も何度も音読しました。12月頃には長文を300語程度から始めて1日1題は読むようにしました。2年生の終わり頃の模試では50台後半ができるようになりました。3年生になって単語が足りないと感じたので「単語王2202」をカードを使い20周くらいしました。その結果3年生の終わり頃の模試では60台前半が出るようになりました。受験で重要なのは特に単語です。単語と長文は受験前日までやりました。

国語は現代文が特に苦手だったので慣れるために1日1題は読むようにしました。古文は単語を覚え文章を読むようにしました。模試の成績は15くらい上がりました。

「合格への道」

千葉大学 法政経学部 法政経学科

3-12 三友 彩加

合格併願校 法政大学・日本大学(法学部法律学科)

まず私は国公立文系であったので、国公立向けの話を主にしていきます。

私情ではありますが、私の私立合格校は2校だけでした。その2校というのも志望校の中では上位の大手ではなく、そのため浪人を考えたことも何度かありました。今まで生きてきてこれ以上に辛いことはないと思ったほどです。でも今考えれば、自分を成長させるのに必要な経験だったと思います。ですが、皆さんには私のような失敗はしてほしくないので、自分の経験を踏まえて話していきたいと思います。

私は受験勉強を始めたのはいつかというのは明確ではなく、学校の授業の延長線上として始めていました。また塾などには通っていなかったし、あまり参考書も自分で購入せずに、学校の教材で学習していました。それで十分だと思います。また先生方も多くの問題を提供してくれるので、足りなくなったら先生を尋ねてみてください。模試の復習はもちろん重要です。復習した分だけ成績も伸びると思います。ただ、昌平高校は多くの模試を受けるので全部を復習するのは至極難しいです。ですので、自分が特に苦手としているところ、よく問題に出やすいなと思うところを重点的に要領よく復習することが大事です。

次に学習方法について少し話します。英語は2年生のうちにvintageを完璧にしておくことを強くおすすめします。3年生になるととにかく英文を大量に読むことになります。文法・単語は2年生のうちにある程度仕上げて3年生では定期的に確認するという方法がいいと思います。そして、数学は国公立文系にとってやはりキーポイントになってきます。2年生に入ると、文系は数学の拘束が一気にになります。そこで気を緩めて数学を放っておくと、後に痛い目を見ます。ですので、毎日1問でもいいので、focus goldをやってみてください。それで数学の力はかなり変わってきます。そして全教科に言えることですが、やはり基礎は大事です。最後の最後まで基礎を疎かにしないでください。

最後に皆さんに伝えたいのが、受験を左右するのは精神だということです。受験は団体戦でもあります。が、受験勉強は孤独なものです。私自身受験期は相当精神的に参りました。そんな時心の支えとなったのは、家族、友人、先生方です。受験期には皆さんも実感すると思います。周りの支えがあって今の自分がいることを忘れないでください。また、周りを支えてください。そうすれば皆さんで受験を乗り越えられるはずです。皆さんの受験が成功することを祈っています。

<参考書及び問題集>

- ・文系の数学 実戦力向上編 河合塾シリーズ 堀尾豊孝/著
- ・日本史B 標準問題精講 旺文社 石川昌康/著

「奮励努力」

東京工業大学 第3類

3-12 関口 紘生

合格併願校 東京理科大学 理学部 応用化学科
基礎工学部 材料工学科 立教大学 理学部 化学科(センター)
中央大学 理工学部 応用化学科

私が受験勉強を本格的に意識し始めたのは、高校3年の2学期からでした。勿論、クラス柄、半強制的に勉強させられていたので勉強をしていなかったわけではないですが、受験勉強をするにあたり、まず初めにした事は受験に必要な情報を仕入れることでした。例えば東工大なら、センターを全く考慮しない等知っているだけでこれからの対策が全然違ったものになります。その後はひたすら模試の復習をしました。正直私は復習が好きではなく、家には今まで受けた模試が積み重なっていたので、一つ一つ解きなおしました。そうすると、自分の苦手単元や抜けていた知識がわかり、その部分をセミナー等で復習するという効率の良い勉強ができます。もし現時点で復習していない模試があるなら早急に復習することをお勧めします。それが終わった後、ようやくオープン模試や赤本等の過去問を解き始めました。私の場合、先ほど述べた通りセンターを考慮しないで過去問のみに集中できた事が大きかったと思います。

受験勉強を経験して最も辛かった事はモチベーションの維持でした。国立の試験は2月末と遅く、他の生徒は合格発表が出揃って中ただ勉強に打ち込むのは大変苦痛でした。元々勉強自体が好きではなく、時には「なぜ勉強しているのか?」と考えながら勉強していました。そんな状態では当然渉る事もなく、どうしても集中出来ない場合は、友達とご飯食べに行ったり、ランニングしたりしていました。今考えるとそれらがうまくガス抜きになっていたと思います。

最後に、結局は自分の学力で合否が決まりますが、受験まで支えてくれた友達、家族、そして昌平の先生方が居なければ大学受験は乗り越えられませんでした。そういう意味では受験は団体戦だと私は思います。その方に感謝を忘れずに受験頑張ってください!

参考書及び問題集> 基本事項を深く理解していればほとんどの問題に対応できます。

赤本、赤本!及び全教科で河合塾テキスト

- ・英語 データベース4500(桐原書店)
- ・数学 途崎先生及び志川先生のプリント
- ・物理 物理のエッセンス(浜島清利/河合出版) 良問の風(浜島清利/河合出版)
- ・化学 教科書(数研出版)

日本史は授業をしっかりと聞き、先生のプリントを使い、定期テストで100点をとる事を目標に勉強して、そのうえで「日本史B講義の実況中継」を10周くらいやりました。特に近代史に重点をおいてやりました。模試の成績は60台後半になりました。

赤本は10月頃から問題集として活用しました。大学によって問題の特性が異なるため早めに見て対策する事をおすすめします。なので模試の結果を気にしすぎないでください。

最後に受験勉強は、自分に必要な勉強を計画をたてて、コツコツと積み重ねていくことが大事だと思います。そして途中で勉強法を変えず最後までやり抜くことが大切です。

<参考書、及び問題集>

DataBase4500、単語王2202、解体英熟語、入門英文解釈の技術70、基礎英文解釈の技術100、やっておきたい英語長文300、500等

田村のやさしく語る現代文、田村の現代文講義①②、 現代文読解力の開発講座
古文单語 FORMULA600、中堅私立古文演習等 石川の日本史B講義の実況中継①~④等

「私の理科大への道」

東京理科大学工学部機械工学科

3-8 上田 英聖

合格併願校 東京理科大学 工学部機械工学科・電気工学科・理学部第一部応用物理学
理工学部機械工学科・電気電子情報・工学科基礎工学部材料工学科・電子応用学科
法政大学・理工学部機械工学科 学習院大学・理学部物理学
日本大学・理工学部航空宇宙工学科・精密機械工学科 東洋大学理工学部機械工学科

私は高校2年生から受験勉強をはじめました。初めは何をしていいか分からず、先生の出す課題(フォーカスゴールド)をこなし、定期テストの勉強に力を注いでいました。それと並行に一年生の時のフォーカスゴールドをしていました。この時に、英語にも力を注げば良かったのですが、私はおそらくしてしまい英語の偏差値が壊滅的になってしまい二年生の夏休み明けには、英語と数学の偏差値の差が30離れてしまいました。ここで警告しておきたいのは、英語をおろそかにすると後で痛い目に会うということです。こうならないために皆さん、英語の音読が大切だと思います。できることなら早いうちに、安河内哲也のハイパートレーニングを使った方がいいと思います。それと私は英語の文法はピンテージを使っていました。あまり多くの参考書を使うと、効率が悪くなり悪循環に陥ると思います。

そうこうしているうちに二年生の冬になり、物理をやらなければならなくなりました。この時、絶対に授業でやった内容は完璧にしておいて下さい。(参考書は、物理のエッセンスがお勧めです。)三年生になると、数学3をやらなければならないので本当にきつくなります。この時期になると理科・社会の模試も入ってくるので、模試の復習もきつくなっています。皆が模試ノートを作ってる中、私は模試ノートを作るのが面倒だったので携帯に写真として保存し、いつでも見られるようにしました。

私は三年生の春には英語、数学3、物理でてんてこ舞いでした。忙しければ忙しいほど前の単元の内容が抜けていき、收取がつかなくなります。こうならないために模試をかつようしましょう。模試は本当にいい教材で、自分は何ができなくて何を忘れているのか教えてくれるいい教師です。

そして三年生の夏になりました。この夏を制する者受験を制します。ここからは、自分との戦いで、苦手なところを克服し、得意なところを伸ばすために先生がたに個人課題を出してもらうといいと思います。私は青チャートばっかりやっていたので肝心な事を忘れてしまい、個人課題をもらったのは10月頃でした。夏を過ぎると赤本の出番です。赤本は、その大学の問題傾向を教えてくれるだけでなく、苦手なところも教えてくれます。後は足りないところを補えばいいだけです。

受験の時緊張してしまう人はオープン模試を受けるといいと思います。学校で受ける模試と違う雰囲気を味わうことができるので、受験の疑似体験ができると思います。ご武運を！

<使った問題集>

英語 DATABASE 4500(桐原書店)・VINTAGE(いいづな書店)

ハイパートレーニングレベル2・3(安河内哲也)

数学 フォーカスゴールド(啓林館) 1A2B3・青チャート(数研出版) 1A2B3

物理 物理のエッセンス(可合出版)・名門の森(可合出版)

「あとはきみしたい」

早稲田大学 教育学部 社会科 地理歴史専修

3-14 和田 彩花

合格併願校 学習院大学 文学部 史学科 青山学院大学 文学部 史学科
國學院大学 文学部 史学科(セ・一般) 駒澤大学 文学部 歴史学科(セ)

きっと理想、願いを叶えるも

黙って明日を迎えるも

あとはきみしたい

とあるアニメのEDテーマの歌詞です。ピンときた人もいるかな？至極当たり前なことを言うこの一節が、わたしの受験生活のラストスパートを支えました。

わたしは受験期、家から一歩も出さずに日々勉強していました。よく自宅学習はサボりへの誘惑が多くダメだとか言われますが、あの歌詞を心に留め置いておけば、サボろうという気は起きなくなります。思い出すたび、サボるのは「きみしたい」だが、そのサボりが不合格へつながったらどうする？と問い合わせられている気分になります。わたしの周りを見渡してみても、受験期なのにまだ「きみしたい」なことに気付かず(あるいはわかっているのに目を背けて)結果受験に失敗した同級生は案外多いです。だからみなさんは「きみしたい」であることに早く気付いて、自分をコントロールしながら受験勉強を進めていってほしいです。

ここまででは勉強に対する姿勢の話でしたが、いくら普段から自律を完璧にして勉強したって、テスト本番で環境がいつもと違うから、緊張しいだから、隣の人の雰囲気に呑まれてしまったから…なんて理由で実力が発揮できない人はやっぱりいますよね。わたしもそのクチでした。そういう人におススメの模試・試験での休憩の過ごし方をここからは書かせていただきます。

「私の合格体験記」

千葉県立保健医療大学リハビリテーション学科

3-11 柴 穂乃歌

合格併願校 国際医療福祉大学 保健医療学部 作業療法学科

杏林大学 保健学部 作業療法学科

私は高校3年生の9月まで部活動をしていたので本格的に受験勉強を始めたのは部活動を引退してからでした。その為、他の受験生に比べ私の勉強時間は圧倒的に少なかったです。しかし、少ない時間を使有效地に使うことでこの穴を埋めることができました。

現役の時は部活動の後に自習室へ行き勉強しました。私は朝型なので帰宅後はなるべく早く寝て次の朝早くに学校へ行き、勉強をする習慣をつけました。頭がしっかり冴えている状態で勉強をしたので、少ない時間で多くのことができました。引退後は勉強にだけ力を入れることができるので朝から晩まで自習室にこもるようになりました。周りより自分は遅れているという焦りからとても集中して勉強することができたと思います。

受験勉強をするにあたり、私は1つの教材を何回も繰り返し解きました。よく色々な問題集をたくさん買う受験生がいますが、私は日本史のイラスト集以外何も買いませんでした。学校で購入した問題集を何度も繰り返し解くことで次第に内容が定着していきました。学校の教材だけでは不安に感じてしまう人もいると思います。しかし、入試では基本問題ができるかどうかで合否が分かれています。まずは基礎をしっかりと固めることに力を入れてみてください。受験期間中は、「早く受験終わらないかな～」

「何でこんなに勉強しなきゃいけないの？」と毎日思っていました。でも今、こうして振り返ってみると本当にあっという間です。辛いことを乗り越えたことで人間的にも成長することができ、最後まで諦めずに頑張って良かったと思っています。合格発表で自分の番号があった時の喜びは今までの辛さを全て吹っ飛ばします！この達成感をこれから受験を迎える皆さんにも味わってもらいたいです。そのためにも最後まで諦めずに戦い抜いてください！応援しています！

<参考書・問題集>

DataBase4500(荻野治雄・桐原書店) VINTAGE(いいづな書店)

セミナー生物基礎(第一学習社) セミナー科学基礎(第一学習社)

赤本(数学社) 学習まんが少年少女日本の歴史(小学館)

英語・Vintage、Date Base4500、Date Base5500

化学・セミナー化学、スタディサプリ、

岡野の化学をはじめからていねいにシリーズ(ナガセ)

生物・セミナー生物、スタディサプリ

地理・センター過去問

「受験合格体験記」

明治大学文学部心理社会学科

3-10 田村 沙莉

合格併願校

立教大学現代心理学部心理学科(個別日程入試)

東洋大学社会学部社会心理学科(センター利用入試)

はじめに、私が受験勉強を本気で始めたのは、2年の冬頃でした。学校があると家で勉強する気にならず、結果苦手だった現代文をほとんど勉強せずセンター試験に臨みました。だからみなさんは、ぜひ今日から、どんな教科でも一つでいいから問題を解き、一つでいいから頭に入れてみてください。

具体的な勉強法は、学校の教材を徹底したうえで過去問を解き、その後必要だと思う教材を取捨選択するのがいいと思います。冬頃には過去問の出題傾向に合わせた学習も必須です。日本史は、教科書の欄外や資料にも目を通すことと、前後のつながりを考えて覚えることです。やればやるだけ点数は上がります。国語の古典は、基礎知識を前提に演習をして、応用に慣れていくのが一番だと思います。現代文は、感覚ではなく論理的に、法則やパターンを踏まえて間違えたところを理解できるまでやりこむ。

英語は単語が大前提で、いろんな種類の長文を読み、速読力をつけていくのが肝です。今までもらった教材を繰り返し、足りなければ新しく買うのがいいと思います。私は過去問以外に参考書などは一切買いませんでしたが、学校でもらう教材を活用すればMARCHレベルくらいまでは大丈夫だと思います(早慶上智あたりはそれでは厳しいですが)。とはいっても、私は模試ではBからD判定をさまよっていて、直前まで不安はぬぐえませんでした。手ごたえもよくなく、合格は半ばあきらめっていました。結果は最後までわからないので、もうだめだ、などと考えずに堅実に。

勉強は時間より質であり、どれだけやったかではなく、どれだけ得るものがあったかだと思います。

自分が思っているより受験の現実は厳しかったし、何百人何千人のなかの何十人に入るのは簡単ではないですが、受験はやれば受かります。今できることを頑張ってください！

<使った参考書>

英語・ DataBase4500

桐原書店

・ Neo 現代を探る(advanced)

いいづな書店

国語・Key&Point 古文単語 330

いいづな書店

・新修古典文法

京都書房

学校外部の模試や本番の入試では大人数収容の教室や講堂で受験することが多いと思います。わたしは周りの受験生からの圧迫感が嫌だったので、ごはんも自習もできるだけ廊下のベンチや談話スペースに移動して（ない場合は廊下で壁にもたれかかりながら）済ませ、試験官が来るギリギリまで試験場に入りませんでした。こうすることで、自分のペースを守りながらの受験をすることができました。雰囲気に呑まれたくないのなら、周りと同じ空気を吸う時間を減らすべきです。ぜひ、お試しあれ。

最後になりますが、息抜きは大事です。ぜひ意識して勉強の合間に取り入れてください。わたしは入試中も、それこそ早稲田の入試日の前日だってアニメを観ていました（もちろん3年に上がってからは本数を絞っていましたが）。漫画とアニメが大好きなんです。前述のとおり入試中は家で勉強し、昼食はいつも一人だったので、食べながら観していました。アニメは基本30分なので休憩時間を計るのにはちょうど良かったんです。入試中はだいたい1日1本観ていました。みなさんも各自時間のかかりすぎない息抜きを、いまのうちに模索してみてください。

受験まで、みなさんが思っているよりもっと、時間がありません。3年生の1年間なんてそれこそジェットコースターです。陳腐な表現ですけど、本当にそうです。だからいま、まだ時間のあるうちに、この体験記を、あるいは別の体験記を参考にしながら受験にむけての勉強の姿勢を作り始め、工夫を模索してください。きみの受験の成功も失敗も、すべてきみの意識と努力しだいなのです。みなさんが良い受験を迎えることを、祈っています。

きっと甘い甘いと云われても

違うよ違うと貶されたって

あとはきみしだい

迷うんじゃない

★使用した参考書等（学校外購入のもののみ出版社を添付）

- ・英語 やっておきたい英語長文700(河合出版)、やっておきたい英語長文1000(河合出版)、Vintage、 DataBase4500、 DataBase5500、その他学校にて購入の教材
- ・国語 頻出順古文単語365(尚文出版)、その他学校配布のプリント、学校にて購入の教材
- ・日本史 詳説日本史10分間テスト(山川出版社)、日本史B標準問題精講(旺文社)、日本史B用語集、その他学校配布のプリントとテスト

「3年0学期からのスタート」

国立看護大学校看護学部看護学科

3-9 中川 初音

合格併願校

杏林大学保健学部看護学科

自治医科大学看護学部看護学科

東京家政大学看護学部看護学科

2年生の3学期は3年生に上がる前の大切な時期のため3年0学期と呼ぶ先生もいました。私はこの時期に将来の夢や志望大学を確定したため、自習室に残り始めました。それまで私は、定期テスト前だけのそなへしのぎの勉強しかしていませんでした。そのため最初は、教科書の問題を繰り返し解き、抜けている基礎部分を徹底的に無くしました。また、この時期に第一志望校の過去問を解き各教科の問題傾向を把握しました。

3年生になり第一志望校の問題傾向に合わせ教科ごとに勉強方法を変えました。例えば苦手だけど配点が高い現代文は、アチーブとセンター試験の過去問と様々な大学の過去問をすばやく正確な回答ができるようになるまで解きました。そして間違えるたびに間違えた理由をノートにまとめていました。そのノートを見ることにより気をつけるべきポイントがわかりました。苦手で配点の低い化学は1から教えてくれる参考書を1冊だけ買い、解法を暗記するほど何度も解きました。また、得意で配点の高い生物は入試で満点をとれるようにするためセミナーを何度も解きました。英語は問題傾向が非常に特殊でした。長文は医療系と決まっていたため普通の長文と医療系長文を毎日交互に解いていました。

身についていない問題がわかる模試もうまく利用していました。模試ノートを作り、間違えた問題と間違えた理由を書いていました。間違えた問題は1週間後に解き、再び間違えた問題は1か月後に解いていました。このように第1志望校の過去問と模試を活用することにより、時間がない中でも効率よく勉強することができました。

分からぬ問題は諦めずに納得するまで解き続け、第1志望校に合格できるように頑張ってください。最後まで読んでいただきありがとうございました。

<参考書・問題集>

英語 システム英単語メディカル 駿台文庫	国語 アチーブ 桐原書店
私立医大の英語	数学社 数学 標準問題精講 旺文社
Data Base4500	生物 セミナー 第一学習社
NEO 現代を読む	いいづな書店 化学 坂田アキラの化学基礎・化学
NEO 現代を探る	いいづな書店 【計算問題】が面白いほど解ける本
Change the world	いいづな書店 角川書店

「受験はつらいよ、でも希望もある」

群馬大学理工学部総合理工学科

3-10 静野 芳活

合格併願校

東洋大学理工学部生体医工学科(センター利用)

芝浦工業大学システム理工学部生命科学科-生命科学コース(全学統一日程)

芝浦工業大学システム理工学部生命科学科-生命医工学コース(全学統一日程)

私が受験を意識し始めたのは、高3の時くらいです。高3の前半まで運動部に所属し、部長として活動していました。高1、高2のときはあまり受験については深く考えておらず、普段はあまり勉強せずに定期テストが近づいたら勉強するといった感じでした。部活を引退してからは非常に大変でした。先ほど書いた通りコツコツ勉強してきたわけではなかったのでその埋め合わせをする必要がありました。高1、高2の時にもっと勉強時間を設けておけばよかったと思います。だからといって部活をやっていたことについて後悔はありません。今、部活に所属している人には勉強との両立が大変ですが、頑張ってもらいたいです。私は国立志望の理系で数Ⅲを取り、理科は生物選択していたのですが、理系となると試験科目は物理を採用する大学が多かったです。その点、選択肢を狭めることになってしまいました。そのため皆さんは慎重に選択科目を吟味してください。

では私が皆さんにアドバイスすると、第一に自分の志望校をなるべく早く見つけて、その大学について徹底的に調べあげることです。この世の中には多くの大学があり、入試の配点、方式も様々です。例えば入試で偏差値換算をする大学もあれば、ただ単に合計点で決める大学もあります。国公立大学ではセンター試験において傾斜配点方式を採用する大学もあります。ある科目的配点の比率が非常に高かつたり、何もない大学もあったりします。このようなことを暇なときに調べてみてください。また、オープンキャンパスにも積極的に参加してみてください。特に理系の方は研究室をよく見てみると、そして行きたい大学が決まったのであれば過去問を解いてその大学の傾向や癖を早めにつかみ、合格に向けて取り組んでいくのがいいと思います。

第二に併願校の数はよく考えることです。私は一般受験で合計5校受けました。最初のほうは気合が入っており、集中して受験することができたのですが、後半になってくると疲労がたまってきて受験をするのが億劫に感じました。自分はあまり集中力が続かないと思っている人は受験する大学の数をよく考えてみてください。何日も連続して受験すると体がもちませんよ。私は2日連続が限界だと思いました。私が大学受験を経験してみての感想ですが、大学受験はやはり一筋縄ではうまくいかないと思いました。特にGMARCH以上の大学となると大変厳しい戦いとなりました。

最後に、問題が解けるようになった時や偏差値が上がった時の嬉しさが受験勉強へのモチベーションとなりました。私は数学が苦手でありながら理系になったのですが、なんとかここまでやってきました。(今でも数学が苦手だけどね)だから皆さんでも大丈夫。己を信じて目標に向かって頑張ってください。

大学に合格した時の爽快感はもう最高です。

<参考書・問題集>

国語・センター過去問、富井の古典文法をはじめからていねいに(ナガセ)
数学・Focus Gold、沖田の数学I・Aをはじめからていねいにシリーズ(ナガセ)、
原田の数学II・Bをはじめからていねいにシリーズ(ナガセ)